

# 今後の天候について

2013/11/6

株式会社ウェザーマップ

107-0052 東京都港区赤坂5-4-9 COI赤坂五丁目ビル6F

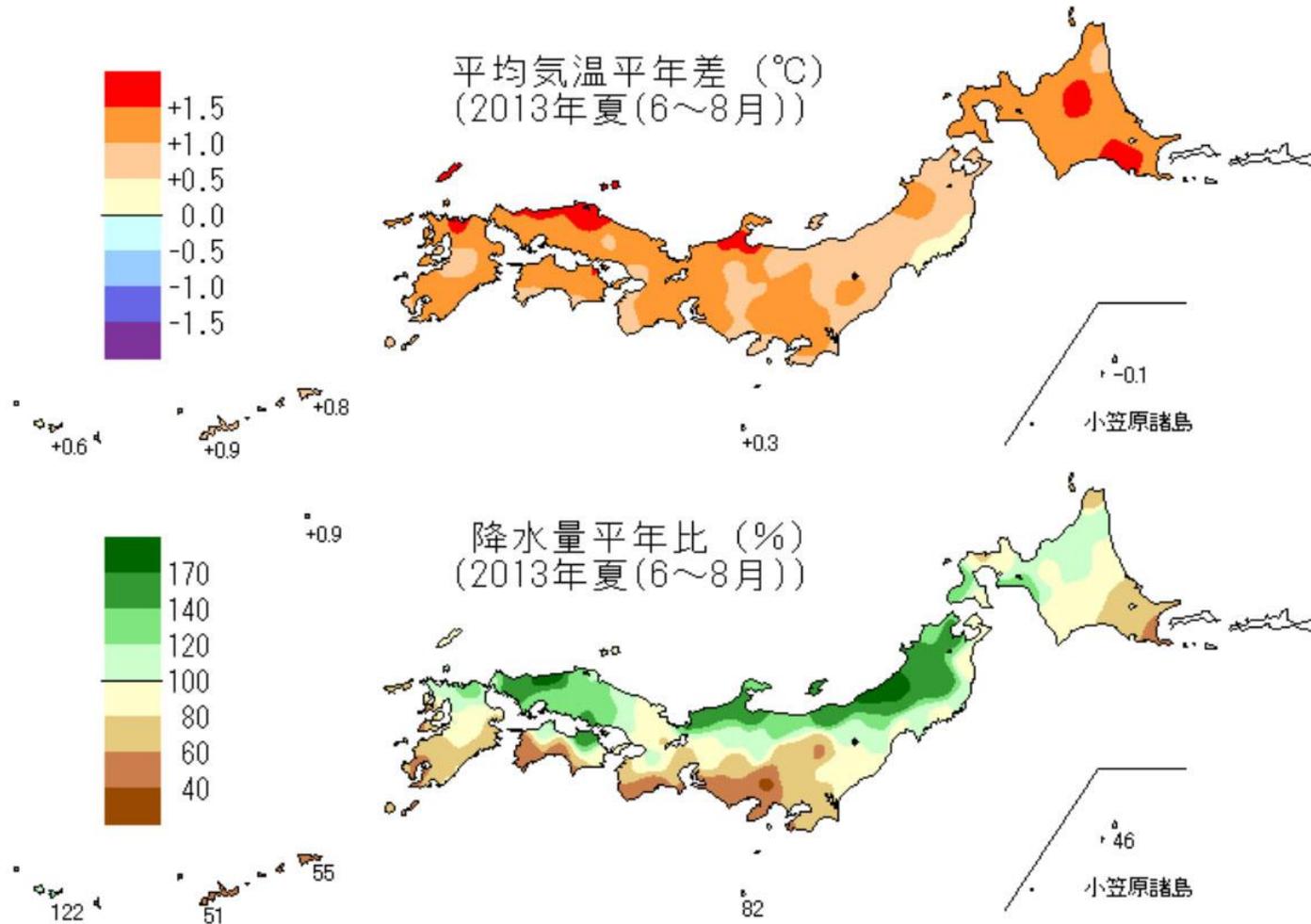
TEL:03-3224-1785/FAX:03-3224-1786

<http://www.weathermap.co.jp/>





# 今夏のまとめ

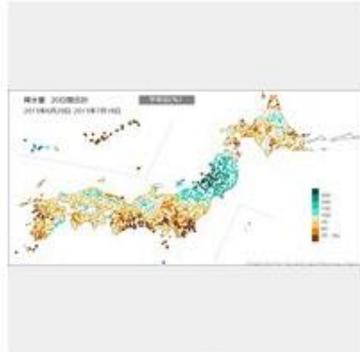




# 北日本で一時的な日照不足

## 東北地方、長雨と日照不足に注意

ウェザーマップ 7月19日(金)15時55分配信



7月18日までの降水量20日間合計（  
平年比・速報値）東北地方の降水量  
は秋田370パーセント、盛岡290パー  
セント、山形263パーセントなど平  
年よりかなり多くなっている=出典  
：気象庁ホームページ

東北地方では、7月3日頃から低気圧や前線の影響で曇りや  
雨の日が続き、降水量が多く日照時間の少ない状態が続いて  
いる。

明日（20日）と明後日（21日）は晴れる所があるが、その後  
は、降水量が多く日照時間の少ない状態が2週間程度は持続す  
る見込みとして、気象台では「長雨と日照不足に関する東北  
地方気象情報」を発表して、農作物の管理等に十分注意する  
よう呼びかけている。

東北地方の降水量平年比（7月3日から7月18日までの速報  
値）は、秋田370パーセント、盛岡290パーセント、山形263  
パーセントなどとなっている。

日照時間も、東北全域で平年よりも少なく、盛岡では平年の41パーセント、秋田で44パー  
セントなどとなっている。

東北地方の太平洋側には19日午後、「低温に関する異常天候早期警戒情報」が発表されてい  
る。

最終更新:7月19日(金)15時55分





# 11~1月の予報(平均気温)

	平均気温 11月	平均気温 12月	平均気温 1月
北日本	低 30 並 40 高 30% ほぼ平年並 の見込み	低 40 並 40 高 20% 平年並か低い 見込み	低 40 並 40 高 20% 平年並か低い 見込み
東日本	低 30 並 40 高 30% ほぼ平年並 の見込み	低 40 並 40 高 20% 平年並か低い 見込み	低 40 並 40 高 20% 平年並か低い 見込み
西日本	低 30 並 40 高 30% ほぼ平年並 の見込み	低 40 並 40 高 20% 平年並か低い 見込み	低 40 並 40 高 20% 平年並か低い 見込み
沖縄・奄美	低 30 並 30 高 40% ほぼ平年並 の見込み	低 40 並 40 高 20% 平年並か低い 見込み	低 30 並 40 高 30% ほぼ平年並 の見込み

数値は予想される出現確率です



# 11~1月の予報(降水量)

		降水量 11月	降水量 12月	降水量 1月
北日本	日本海側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み
	太平洋側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並の見込み
東日本	日本海側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み	少 20 並 40 多 40% 平年並が多い見込み
	太平洋側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み
西日本	日本海側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み
	太平洋側	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み	少 40 並 40 多 20% 平年並か少ない見込み
沖縄・奄美		少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並の見込み	少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み

↑  
数値は予想される  
出現確率です

降水量 11月

降水量 12月

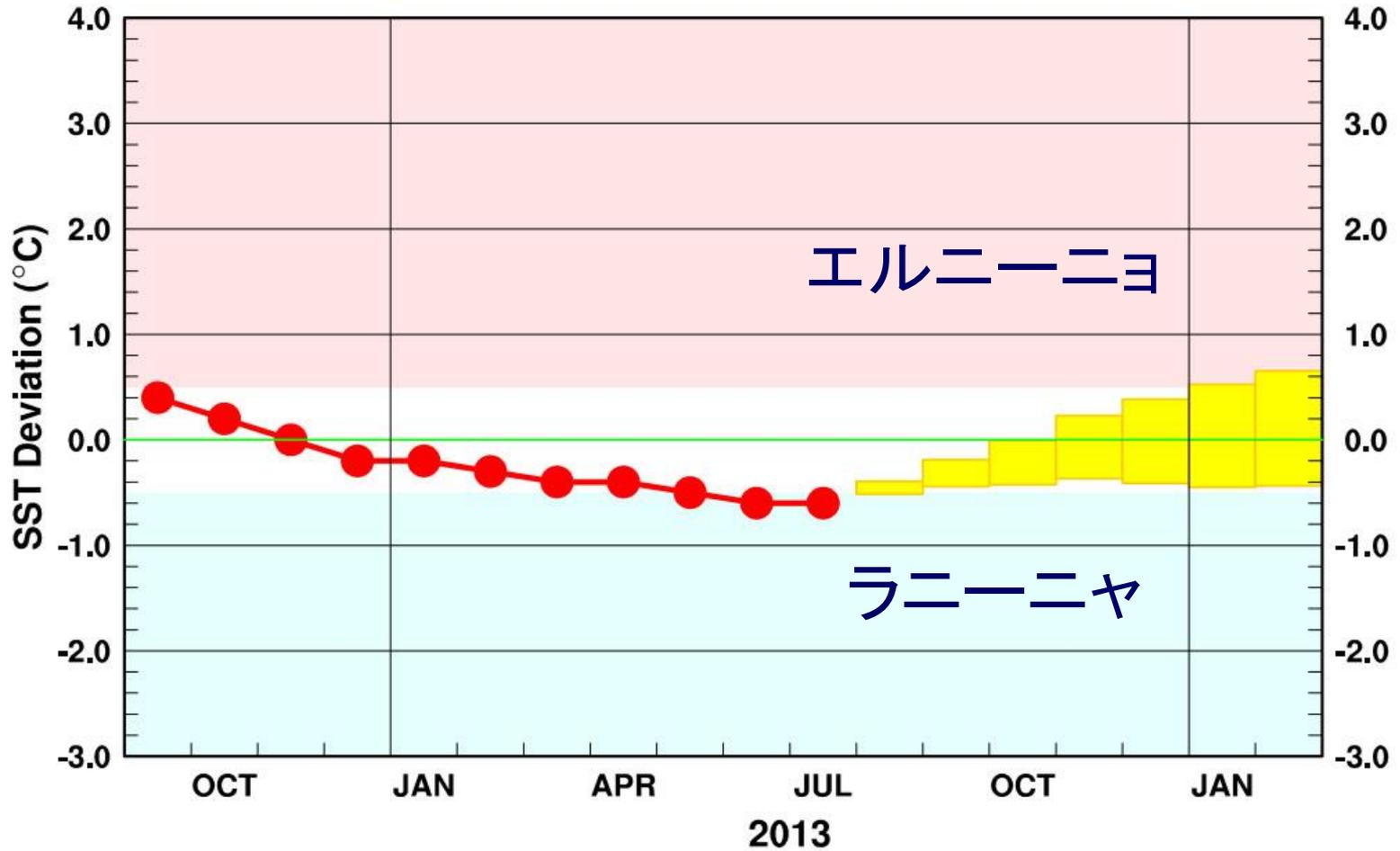
降水量 1月

沖繩・奄美

少ない確率 (%) 50 40 平年並も40 50 多い確率 (%)



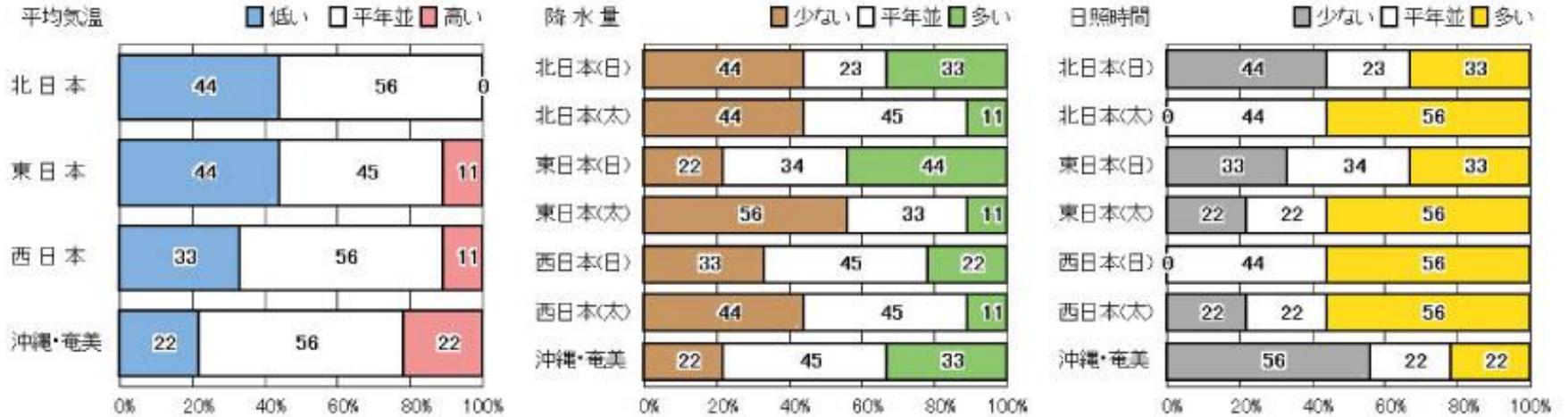
# エルニーニョ/ラニーニャ現象の経過と予測(5か月移動平均値)





# ラニーニャ現象発生時の天候の特徴(11~1月)

平均気温・降水量・日照時間の出現率



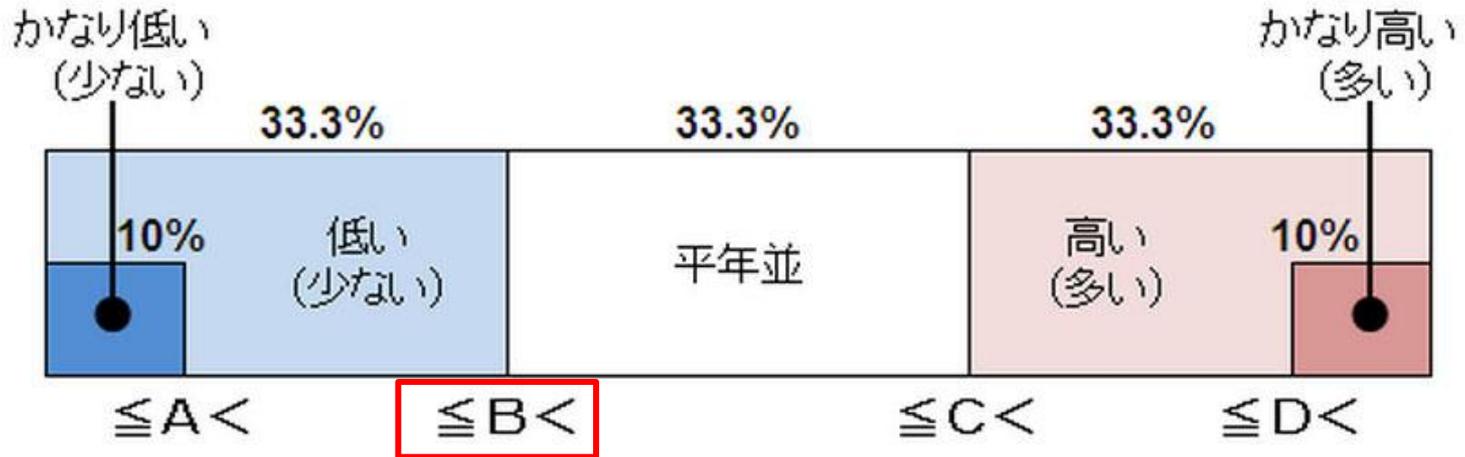
○平均気温は、全国的に平常並みか低い傾向。

○降水量は、太平洋側で少ない傾向。一方、東日本の日本海側では多い傾向。

○日照時間は、北・東日本太平洋側、西日本で多い傾向。



# 「平年より低い」とは



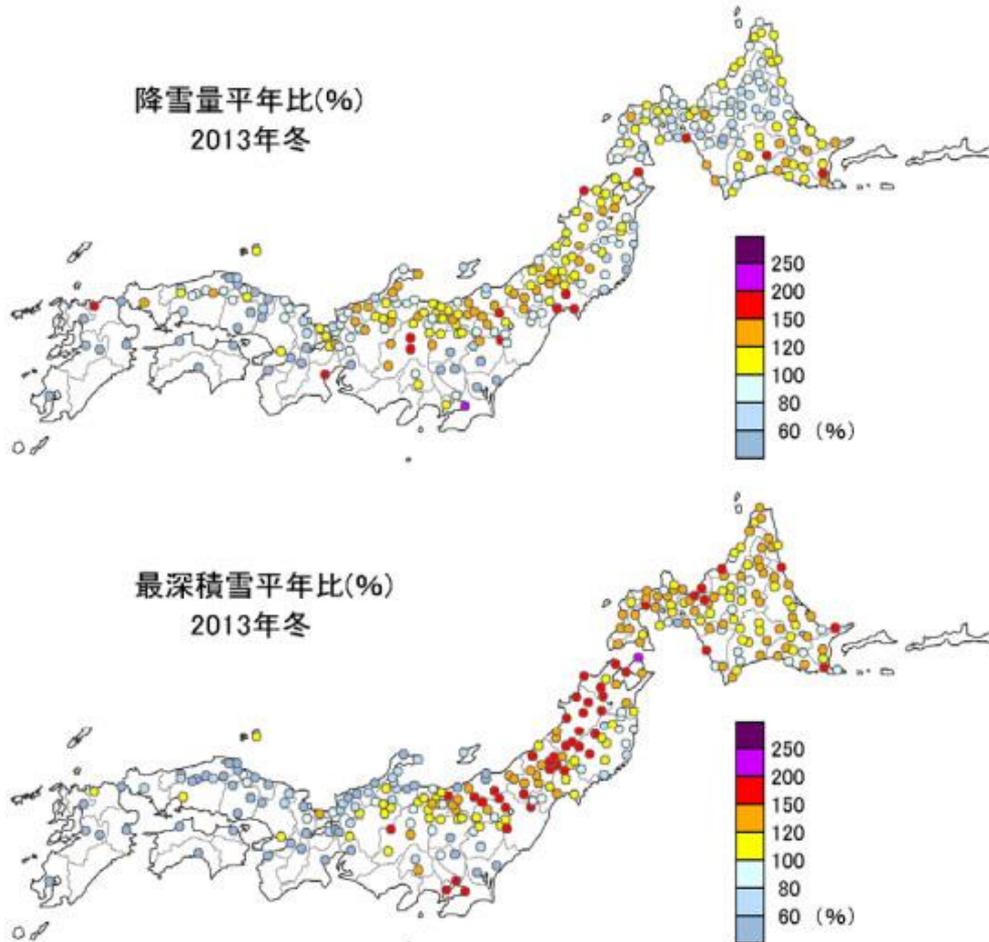
## ●平年並の範囲

	平均気温 3 か月	平均気温 11 月	平均気温 12 月	平均気温 1 月
北日本	平年差：-0.2~+0.4℃	平年差：-0.4~+0.5℃	平年差：-0.1~+0.4℃	平年差：-0.7~+0.9℃
東日本	平年差：0.0~+0.5℃	平年差：-0.3~+0.6℃	平年差：+0.1~+0.6℃	平年差：-0.1~+0.2℃
西日本	平年差：0.0~+0.5℃	平年差：-0.3~+0.5℃	平年差：-0.1~+0.4℃	平年差：-0.1~+0.3℃
沖縄・奄美	平年差：-0.1~+0.3℃	平年差：-0.5~+0.4℃	平年差：-0.4~+0.3℃	平年差：-0.3~+0.4℃

※東日本の12月は平年差0.0℃でも平年より低い



# 昨シーズンの冬は



- 北・東日本では昨年まで2年連続、西日本では3年連続の寒冬となり、北日本の日本海側では所々で記録的な積雪となった。
- 昨年は青森県の酸ヶ湯で積雪の深さが566cmとなるなど、北日本の日本海側を中心にアメダス12地点で年最深積雪の大きい方からの1位の値を更新し、記録的な積雪となった。

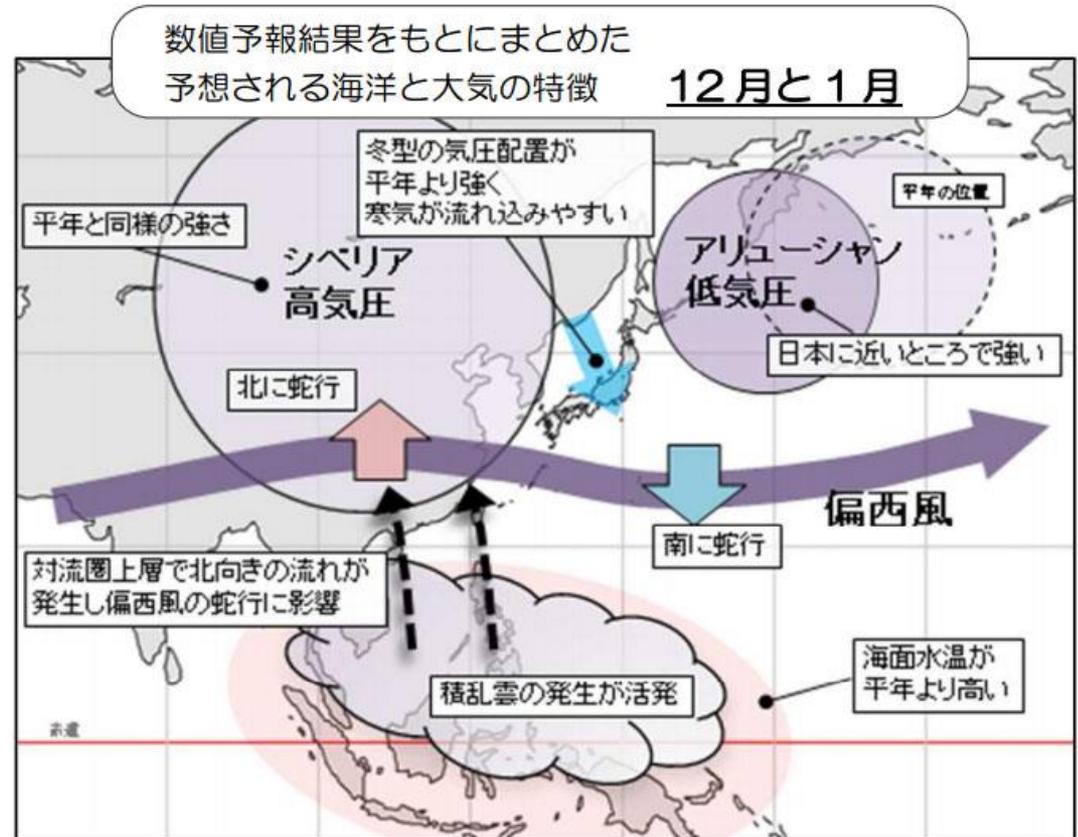
図①：2013年冬の降雪量と最深積雪【降雪量平年比（上図）、最深積雪平年比（下図）】  
 （2013年冬の降雪量は、西日本では平年を下回る地点が多いが、北陸・東北地方などで平年を上回った地点が多い。最深積雪は北日本と新潟県の山沿いで平年を上回った地点が多い）



# 海洋と大気の特徴

## 予想される海洋と大気の特徴

- ラニーニャ現象は発生しない見込みですが、12月と1月は西部太平洋熱帯域での海面水温は平年より高い状態となる見込みです。
- フィリピン周辺など西部太平洋熱帯域で対流活動（積乱雲の発生）が活発な状態が続く見込みです。
- この影響により、偏西風は中国付近で北に蛇行、日本付近で南に蛇行する見込みです。
- シベリア高気圧の強さは平年同様ですが、アリューシャン低気圧は平年より日本寄りで強く、日本付近の冬型の気圧配置は平年より強いいため、北・東・西日本を中心に寒気の影響を受けやすい見込みです。

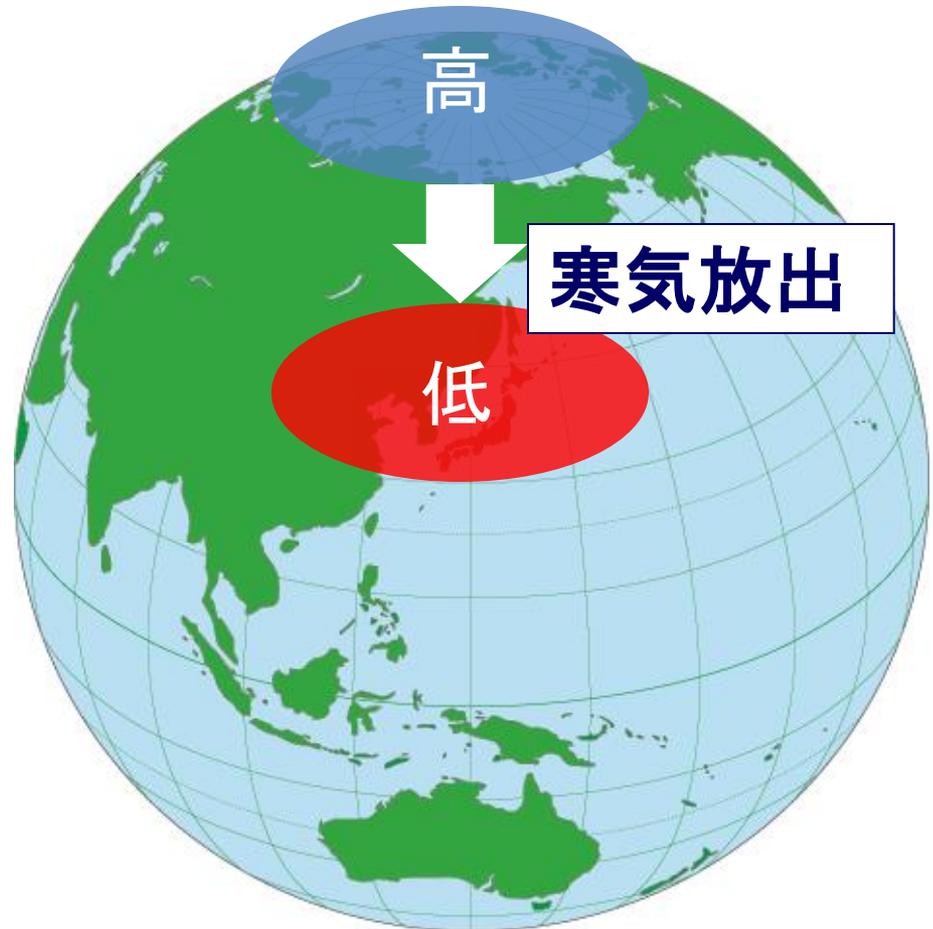


# 北極振動(AO)

北極圏の寒気の蓄積・放出に関与。

北極圏と日本などの中緯度地帯の気圧が相関して、変動する現象。

- 大気の流れは「高気圧」  
→「低気圧」
- 北極圏が「高」、中緯度が「低」  
→寒気の**放出期**
- 北極圏が「低」、中緯度が「高」  
→寒気の**蓄積期**



## まとめ

- エルニーニョ/ラニーニャ現象による天候への大きな影響の可能性は低い。
- 日本付近の冬型の気圧配置は平年より強いいため、北・東・西日本を中心に寒気の影響を受けやすい。
- 北極振動については、明瞭な特徴は見られない。
- 日本海側の多雪傾向が続く可能性がある。